

2020年に世界大に感染が拡大した新型コロナ・ウイルス感染症は、私たちの生命、生活、社会や経済のあり方に対して甚大な損害を与えてきた。過去にも、感染症のパンデミックは人類史の流れを変えるほどのインパクトを持ってきた。近年では重症急性呼吸器症候群(SARS)、今回の新型コロナ・ウイルスなど、今日のグローバル化の進展とあいまって国境を越えた影響を及ぼし、各国の社会・経済・政治を揺るがしている。そのため、別の観点からは、感染症を含むヘルスの問題は、非伝統的安全保障や人間の安全保障と関連付けられ、論じられることもある。持続可能な開発目標(SDGs)においてもユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)が目標の一つとして掲げられているように、感染症の流行が、国家による保健行政やグローバル・ガバナンスのあり方にも甚大な影響を及ぼしてきたことも言うまでもない。

本特集号では、感染症を含む広くヘルス(health)にかかわる多様な問題領域(公衆衛生、保健医療、グローバル・ヘルスなど)を国際政治学・国際関係論の視点から扱うこととする。国際政治学において本テーマは比較的新しいため、多様なテーマや手法による研究を広く受け付けるが、例えば以下のような研究設問が考えられる。

(1)新型コロナ・ウイルスなどによる感染症の拡大は、国際システムにおけるパワーポリティクスや国際秩序にどのような影響を及ぼしてきたのであろうか。

(2)グローバル・ヘルス(保健に関する国際行政)において、どのようなアクターがプロセスを推進し、グローバル・ガバナンスにどのような結果をもたらしているのであろうか。

(3)国内に目を向けると、感染症に対して、国家はどのような政策を実施してきたのか、また国内社会においてどのような政治的な変化を生み出したのであろうか。国家や社会のタイプと感染症への対応の違いという比較政治学的な視座も可能である。

(4)他方、感染症の拡大に際して安全保障上の言説を用いて政府が緊急の対応をとることも散見されるが、どのようなセキュリタイゼーションの特徴とプロセス、また帰結がみられるのであろうか。

(5)HIV/AIDSに言及した国連安保理決議1308に見られるように、ヘルス分野の課題が安全保障と結びつけられるようになっているが、感染症をはじめヘルス分野の課題は、安全保障など既存の概念や政策とどのような関係にあるのだろうか。

以上に示したのは例にすぎず、歴史的な手法を用いた分析も可能であるし、地域研究に基づく研究、定性的な分析、定量分析、実験など幅広い研究手法による多様な論点を提示いただきたい。また、何らかの理論的なインプリケーションを導き出すような研究を歓迎する。

\*

執筆をご希望の会員は、論文の仮タイトルと要旨を600~800字程度にまとめ、2021年11月30日(厳守)までに、下記の編集責任者のアドレスまでEメールにてお送りください。応募に

当たっては、自宅と勤務先／所属先の住所、電話、メールアドレスをお知らせください。検討の上、執筆をお願いする方には、2021年11月30日までに編集責任者から連絡いたします。原稿の最終提出締め切りは2022年10月31日を予定しています。論文の分量は注を含めて2万字以内です。査読の上、最終的な掲載の可否を決定いたします。本号の刊行予定は2023年6月です。執筆要領は、以下の学会ウェブサイトをご覧ください。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いいたします。刊行予定日までに編集責任者の在外研究期間を含みますので、Eメールにてご連絡いただけますと幸いです。

<編集責任者> 栗栖薫子

<連絡先> 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学大学院法学研究科

TEL : 088-803-7273

e-mail : kurusu★dragon.kobe-u.ac.jp (★を@に置き換えてください)